

各位

会社名 日立造船株式会社
代表者名 取締役社長 重藤 毅直
(コード番号 7004 東証・大証・名証 各第1部、福証、札証)
問合せ先 総務部長 神谷 明文 TEL(06)6569 - 0013

当社子会社(日立造船富岡機械株式会社)の解散に関するお知らせ

当社の連結子会社である日立造船富岡機械株式会社(以下、富岡機械という)は、平成16年12月27日開催の同社の取締役会において、平成17年3月上旬をもって会社を解散することを決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当該子会社の名称等

- (1) 商号 日立造船富岡機械株式会社
- (2) 本店所在地 埼玉県川口市元郷1丁目1番27号
- (3) 代表者 取締役社長 野田靖裕

2. 解散の理由

富岡機械の主力事業である製紙機械事業を取り巻く環境は、

製紙業界の新設抄紙機の設備投資縮小ならびに改良およびメンテナンス中心の市場への移行

製紙機械メーカー間の競争激化による受注量および価格の低迷

海外市場における現地メーカーおよび欧州勢との競争激化

などにより、富岡機械の近年の受注は低迷し、業績不振が続いています。

この結果、富岡機械は、平成17年3月期見込みを含めれば、3期連続の損失計上かつ無配となる状況にあります。

富岡機械では、平成14年度に事業構造改革を実施以降、トップ営業による海外市場の開拓をはじめ、役職員一体となって受注の確保に努めるとともに、固定費の圧縮および材料・外注費等の変動費の削減を行ってきましたが、その成果は業績の黒字転換に結びついておりません。

また、事業の多角化による業容拡大にも注力してきましたが、富岡機械の事業における第2の柱にまで育っておりません。

富岡機械では、以上のような明るい展望を欠く市場動向と現在の同社の経営資源からみて、先行きの経営状況は厳しさを増すのみで、このまま事業を継続した場合、富岡機械の株式価値を減少させるばかりであり、富岡機械の株主その他のステークホルダーにとって最悪の事態に立ち至ることになると判断し、解散の決断を行ったものであります。

当社といたしましても、昭和39年2月の資本参加以来、営業、資金、人材等あらゆる面で支援を行ってまいりましたが、本日、富岡機械が解散の決断を行ったことを受け、現在の製紙機械の市場動向、富岡機械の技術力、営業力からみて、これ以上、富岡機械が事業を継続することは困難と判断し、富岡機械からの解散の申入れに同意することといたしました。

3. 当該子会社の概要

富岡機械は、東京証券取引所第 2 部に上場しておりますので、会社概要につきましては、本日の富岡機械の公表資料ならびに同社の有価証券報告書等をご参照ください。

4. 解散に伴う影響額

当社の財務諸表に与える影響額については、富岡機械の解散決議後、残余財産の見込みがつき次第、お知らせいたします。

5. 解散の日程

富岡機械は、平成 17 年 3 月上旬開催予定の臨時株主総会において解散を決議し、同日をもって解散する予定です。

以上